



考え



大Thank You回『一齣漫画宣言』と
『アウター・ワールド』三たび

古き良き時代の
夏休みの終わりに

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

ひさしぶり。

今回はいつもより荒ぶれてるね。

アウター・ワールド、懐かしい。

何度も何度もヒルに殺られながらも、ネバーギブアップの精神で、少しずつ進んでいく。

慣れてくると、ヒルを踏みつけ、飛び越え、調子に乗ってさくさく進む。

でも、調子に乗りすぎて、猛獣に対面したときに、近づきすぎて、逃げきれずOUT。このバランスとハードコアな難易度がたまらんかったね。

主人公が突然、意味不明な世界アウター・ワールドに投げ込まれるという設定だったけれども、ゲームのコントローラーを握りしめている子どもたちも、また意味不明な世界に投げ込まれるという、この一体感。最高だった。

意味不明な世界に放り込まれ、初めて知性をもった敵か味方かわからん奴に会った時の、あの微妙なスマイル。一生忘れられないわ。

意識を失った後、ゲージに閉じこめられる主人公、何も進まず、何も動かず、訳がわからないプレイヤー。俺は当時中学生、友人4,5人と交代交代でプレーしていたけど、ここでゲージが揺れることを発見したこと、揺らし続けたら、先に進めたときの発見。すごかったわ。

このシーンのあと、俺らは確信した。中古でテキトウに買ったこのカセットは、クソゲーじゃない。

伝説級のゲームだと。

結局、数日かけて、皆でクリアしたけど、なんか、未知の生物との友情とか、鳥肌モンだったね。

古き良き時代の夏休みの思い出だわ。



久々にありがとう！

生き活きとした描写で、俺も懐かしさがこみあげました。

まさに一体感のある微妙なスマイル。これだね。プレイヤー心理を驚掴みした巧みなゲーム表現、って勝手な造語だけどさ。

俺も自作で攻略本作ったりノベライズしたり暇だったね、あの頃は。あ、今も同じか。いつかあのノベライズはちゃんとまとめたいと思いつつね。

9月1日は自殺するいじめられっ子が多いらしいけど、俺もたまたまイヤな夢で眠れなくなってこれ書いてる。父親が包丁持って母親を殺しに来る夢。夢の中で叫んで目が覚めた。そういうアレもあったんだって、久々に愕然としてた。『ヒミズ』みたいに追いつかれた感じ。

なんだろう。中年のクセに同情を誘いたいとかじゃなくて。もちろん感動ポルノのつもりもなくてさ。嘘、大げさ、紛らわしいで通報されちゃ困るし。

ただ、そういう夢にうなされるような人間に寄り添うための表現ってあったほうがいいと思う。それとまったく関係ない甘～いファンタジーもそれはそれでいいけど。

そういう悲しみや恐怖がリアルじゃない人間なら、その方が絶対にいい。むしろそういう人生を送りたかった。

でも、体に染みついている恐怖が不意に襲ってくるような人間に向けた表現はあってほしい。恐怖が日常になってる人間に寄り添う言葉は（たとえば『キャッチャー～』みたいに）、もしかしたら幸せな大勢にはむしろ不快で、感動ポルノの方が安心かもしれない。

だからテレビ業界はおおむね感動ポルノなんでしょう。

それに対してよく聞く話だけど、「いいね！」ボタン以外に、「もういいぜ！」ボタンがあっ
ていいと思うんだよ。スルーも消極的肯定に含まれる世の中だから。

もっと違う話題にして、扱いやすい弱い個人の話ばっか流すな、って意思表示はあっていいんじゃないかな。どうでもいい芸能ニュースが多すぎるって、ネットでもみんな言ってんじやん
。

事件起こしたタレントとか、テレビ観ないから「そもそもそんなヤツいたんだ」って初めて知
ったし。

そういうニュースに便乗するバッシングも、（左右の）立場で前から気に食わないからって別
の理由で起こるしね。

それに比べて例えば、福島甲状腺検査の縮小を小児科医会が正式に求めたって話は、驚くほ
どニュースにならない。

公式HPに載ってるけど、「一般的発生頻度を大幅に上回る今回の多数報告について現段階では
科学的かつ客観的評価は困難と思われるものの、被検者である児童青少年およびその保護者のみ

ならず一般県民の間にも健康不安が生じている」から、検査の規模を縮小しろって。

いろんな考えがあるから、別にやめるならやめるで否定しない。ただもし過剰診療を認めるなら、もう手術が終わった子供たちに対して、誰かが何らかの責任を取らなくちゃいけない。それがわかってその議論を避けたいから、結果、全然報道されない仕組みになってるワケだね。

でも今視聴者に人気あるのって、毒舌タレントやキャスターの無双っぷりじゃん。これ単純に、視聴者はまだまだバカじゃないって証拠だと思う。視聴するこっち側の準備はとっくにできてるけど、報道するあっち側はスポンサーと自粛と保身で身動き取れなくなってる感じ。

俺が思うに、『バリバラ！』の感動ポルノの回は、そういう24時間の裏で世の中に対するでっかい「もういいぜ！」ボタンを押したんだろう。いくらでもどこにでもあるよ、「感動ポルノ」は。前回は俺（と岡崎体育『Voice Of Heart』）が、げえげえ吐気がするくらい言ってたヤツね。これも知らんネタだったらゴメンね。

そういえば以前、『バリバラ』のドラマで「禁断の実は満月に輝く」って回が良かった。ほとんど障害者しか出てこない。言ったっけコレ。

なんかあれかね、ウマシカではこれから「健常者」のことを「五体さん」って呼ぶかね。俺が『めぞん一刻』を好きだっていう理由だけで。「悲しみよ こんにちは」とか、今聴いたら改めて完璧だと俺は思ったよ。あのサクスの無駄な大曲感ね。また造語だけど、俺の。

「健常者」「障害者」って十把一絡げはやっぱ21世紀的じゃないよね。両手がない人を「三体さん」とかね。両手両足がない人を「一体さん」とか。

とりあえずどこにどんな障害がある人か、個人を見つめることから始めましょうか。ウマシカは。

自分のために、もう一步進むために、そういう痛みについて表現したいとずっと思ってる。できてるかどうかは別として。

「表現は自己治癒のためのささやかな手段」的な主旨のことをよく春樹が言ってるよね。記憶の生き物である人間が過去の人生を整理しようとして、自分から能動的に表現する行為が、すでに新たな一步を踏み出してるって意味でしょう、たぶん。（夢は脳の整理だって話もよく聞くね）

あと最近驚いたのが、『マンガ図書館Z』ってサイトで、絶版になった昔のマンガが無料で読めるんだけど、そこに相原コージ『一齣漫画宣言』があるっていう。俺の中では中高生の倫理の教科書に載ってておかしくない、マンガの頂点の一つだけど、世間じゃこれが絶版かっていう。

『キャッチャー〜』の終盤に、ヴィルヘルム・シュテーケルって精神分析学者の引用があるんだけど、個人的にはむしろここに相原コージのセリフを突っ込んだ方が俺の趣味だね。今回はこれ最後にやっとう。

「不思議と言うべきかどうか、これは本職の詩人の書いたものじゃない。相原コージという漫画家によって書かれた。彼はこう記して一一聴いてるかい？」

「はい。聴いてます」

「彼はこう記している。『死んで神格化されるくらいなら みじめったらしく最後まで生きてやる』」

「カッコいいですね」

今回は「もういいぜ！」って意思表示をしたかっただけなんだけど、思ったより長くなった。まあ、こんな感じ。

さて、どうかな？



考えるウマシカ～大THANK YOU回 『一齣漫画宣言』と『アウター・ワールド』三たび～

<http://p.booklog.jp/book/109433>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/109433>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/109433>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ